



ご関係者の皆さまこんにちは！福島市ロケツアーリズム推進会議事務局の鈴木と金澤です。
体調管理が難しい季節ですが、どうか御体ご自愛ください。
今回のエール通信では、福島市のオリジナルロゴ説明会のご報告と、古関裕而さんの奥様金子さんのご出身地である愛知県豊橋市訪問、NHK 渋谷放送センターと古関裕而さんの世田谷のご自宅訪問のご報告をさせていただきます。どうぞお付き合いください♪

その1 12月13日に福島市オリジナルロゴ説明会が開催されました。



先月11月25日に行われたNHKエンタープライズ様の番組タイトルロゴ説明会で、番組ロゴを使用できるものは『穀物類（そば・うどん）のみ、それ以外の商品は黒ゴシックロゴのみを使用可能とのご説明がありました。その説明会を受けて、福島市のオリジナルロゴ使用の説明会が開催されました。

こちらのオリジナルロゴは福島市へ申請して頂き、許可が下りれば無料でお使い頂けます。
※福島市オリジナルロゴの申請書は福島市役所ホームページよりダウンロード可能です。⇒リンクはこちら
 また、NHKエンタープライズ様も商品使用の許可を得るため奔走してくださっており、12月20日現在でお菓子（和菓子、洋菓子、パン等）が追加で番組タイトルロゴを使用できるようになりました。
※エール番組タイトルロゴ使用についてのお問い合わせはNHKエンタープライズ様へ（TEL03-5478-8171）

古関裕而さんや奥様の金子さんのお写真を使用したい場合や、古関裕而さんが描かれた絵を使用したい場合には、下記の内容で市役所がとりまとめて古関裕而さんのご家族様に申請し、ご家族様から許可を頂きますとご使用頂けます。写真の使用料につきましてはご家族様へ直接お振込み頂きます。よろしく願い致します。

種類	使用料	申請書とりまとめ先	使用期限	使用範囲	継続使用料
写真の使用	1回につき 10,000円	福島市観光コンベンション推進室 TEL:024-572-5718	3年	下記全て	無料
絵の使用	無料	同上	3年	全ての絵	無料



A-1 A-2 A-3 A-4 A-5 A-6 A-7 A-8 A-9 A-10

※写真、絵ともに3年経過後に更新申請が必要となります。その際には使用料や更新料等は発生しません。
 ※写真・絵の申請書が必要な方は福島市観光コンベンション推進室へご連絡ください。
 ※絵につきましては古関裕而氏が描いたスケッチ集『風景の調べ 古関裕而スケッチ集』にある絵が全て無料でご利用可能となります。スケッチ集は福島市観光コンベンション推進室の窓口に置いてありますので、そちらの絵をご指定頂き申請してください。
 ※古関裕而氏の似顔絵イラストを独自に作成して自社製品に使用したい場合は、デザイン作成前の段階で福島市観光コンベンション推進室へ使用内容について事前にご相談ください。

その2 12月11日に金子さんのご出身地である愛知県豊橋市へ行って来ました！

豊橋市には今も市電が走っており、市民の足として国道の中央をゆったり走っていました。

市電で駅から揺られること10分ほどで豊橋市役所へ到着。金子さんのご実家は豊橋駅から車で10分ほどのところだそうです。現存するものは残っていないそうです。

豊橋市は以前より自家製麺所が多く、うどん屋さんが多いこともあり、金子さんはうどんもお好きだったそうです。

自家製麺所が多いことから、10年前に発足した豊橋フィルムコミッションが仕掛人となり『豊橋カレーうどん』を生み出し、今ではすっかり豊橋名物として定着したそうです。豊橋フィルムコミッションは10年の実績があり、監督やスタッフさん方のクチコミで、「豊橋はロケがしやすい！」という情報が制作サイドに広まっているため、営業をかけなくても非常に多くのドラマや映画、CMなどの撮影依頼が舞い込んでくるそうです。市民の皆さんも、今ではエキストラとして出演することや、自分の町がテレビに映るのが楽しみとなっており、ロケに対して非常に協力的だそうです。

今回の朝ドラのロケも、NHK制作サイドからの要望を受け、希望する内容に応え、エキストラ手配からロケ地選定など、全て豊橋フィルムコミッション主導で行ったそうです。

NHKの朝ドラ撮影時には衣装を積んだ10tトラックが何台も来る事もあり、その駐車場の手配は青果市場にお願いしたり、陸王のロケの際には、警察と国交省の協力を得て国道1号線を止めたり、沿道の応援エキストラとして1万人の方々にご協力を頂いたり、毎回無理だと思われるような要望にもスピーディに応え、監督さんやスタッフさん、キャストさんとの信頼関係へと繋がっているのだそうです。

豊橋市内を走る市電
アナウンスは松平健さん



【豊橋フィルムコミッションのモットー】

『1. 不可能を可能に 2. ノーと言わない 3. かゆいところに手が届く 4. 制作の方の想いに寄り添う』

豊橋市は長い年月をかけて築き上げてきた信頼関係や、積極的に行動する市民性もあり、今すぐに全く同じような動きを福島で行うというのは難しいですが、福島のカラーを出しながら福島人らしいロケツーリズムを一緒に楽しんでいきましょう♪今後ロケを行なっていく際には、豊橋市の事例をご覧頂いておわかりの通り、市民の皆さんや事業所の皆さん一人一人のご協力がないと成り立たない事ばかりです。どうか皆さまには今後ともお力添えを頂きたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

その3 NHK 渋谷放送センターへ行って参りました！

12月12日にNHK渋谷放送センターで広報展開プロデューサーの川口様、NHKエンタープライズ様と打合せを行って参りました。漠然とした内容でも良いですし、これはダメかなという様な内容でも構わないので、どんどんやりたいことをNHKへ挙げてください。とのことでしたので、皆様も要望をぜひどんどん声に出して金澤へご連絡ください。NHKさんと検討させていただきます！

NHKのスタジオでは前半の一番の見所を撮影していました。豊橋編の撮影中だったのですが、随所に福島色を盛り込んでくださっていて、福島編ではなくとも福島を常に感じる内容の仕上がりにより胸が熱くなりました。キャストさん達の福島弁も秀逸で、詳細をお伝えできないのが非常に残念でありませんが、本番中にも拘わらず、NHKスタッフさん達が声を押し殺して肩を震わせながら笑いをこらえてモニターチェックをされている姿に、朝ドラ「エール」の大ヒットを予感しました。

朝ドラ撮影現場の特色として、キャストさんもスタッフさんも皆さん同じ場所で休憩をとるそうで、それほど広くはないスペースに長椅子と長テーブルが置かれていて、ドラマに関わっている皆さんがその長椅子と一緒に談笑し、収録の合間合間に差し入れを召し上がっていました。小分けになっていて一口サイズのものが入り口に合っているように思いました。

今後お伺いする際には、福島の手土産をお持ちして召しあがって頂こうと思いますので、自薦他薦問いません。ぜひこの商品を！という物がございましたら金澤までご一報ください。



その4 古関裕而さんの息子さん、お孫さんとお会いして参りました！

古関裕而さんが東京で過ごした世田谷のご自宅へ伺い、息子さんの古関正裕さんと奥様、お孫さんの松本幸子さんとお話をさせて頂きました。



古関裕而さんをモデルに朝ドラを制作したいというお話がNHKから来た際、「身内のことをお話するのはとても恥ずかしく、また、戦時歌謡曲をたくさん世に出していたこともあり、軍歌を作った作曲家と言われることも多いため、私たち家族は（古関裕而さんも含め）いたって一般人なので、色々な考えの方がいらっしゃるのでは不安に感じていました。朝ドラの脚本に関しても、こちらからこのように書いてほしいという要望は伝えられないので、どのような内容になるかわからないもので。ですが、震災に遭われた福島の方々に応援させて頂きたいと思い、少しでもお役に立てるのであればという思いから、今回脚本家の方へ協力させて頂きました。」とお孫さんの松本幸子さんが仰っていました。

また、古関裕而さんのご自宅で古関裕而さんの描かれた絵、金子さんの描かれた絵を拝見しながら当時を振り返ってお話をさせて頂きました。自叙伝や史実に基づく本には記載がないような事も、お話をしていく中で次々と思い出して頂き、古関裕而さんと金子さんをととても身近に感じることができましたので、Eメール通信で共有させて頂きますね。今後も素敵な古関裕而ご夫妻の人となりを持って参りたいと思います。

皆さんも、ご自身やご家族、ご親戚、ご友人に古関裕而さんや金子さんとのエピソードをお持ちの方がいらっしゃると思いますので、古関裕而さんがお好きだった食べ物や場所、趣味などのエピソードをぜひ教えてください。皆様には、その情報をもとに新たなメニューやお土産開発、各種サービス等の創出をして頂けたら嬉しく思います。福島をご来訪くださる方々にも古関裕而さんの世界観を楽しんで頂くことで、地域経済の活性化に繋がっていきますので、皆様のアイデアでぜひ福島と一緒に盛り上げていきましょう♪

【古関裕而さんがお好きだったこと】

お好きなこと	付随したエピソード
こけし集め	様々な温泉地に行ってこけしを買っていた。記念館の再現部屋にも置いてある。家族旅行で土湯温泉や飯坂温泉にも行っていた。飯坂へは飯坂電車に乗って。
木版画集め	木版画が好きで家にも飾っていた。ミニ本クラブに入っていて、配布される木版画のカレンダーを取っておいては、木箱に貼り付けて道具箱として使っていた。
文房具集め	文房具が大好きで、譜面1冊ずつファイルで綴じ、パンチで名前を打ったラベルをきれいに貼って管理していた。

【古関裕而さんが苦手だったこと】

苦手なこと	付随したエピソード
自転車に乗れなかった	応援歌は沢山作っていたのに本人は運動音痴で、自転車にも乗れず家の周りをもっぱら歩いて散策していた。金子さんと歩いて下北沢へも行っていた。

ご夫妻の普段の様子は、基本的に金子さんがたくさんお話をされ、傍らで裕而さんは穏やかに話を聞いていたのだそうです。金子さんが描かれたスケッチには、どの絵にも熱い文面と一緒に綴られていて、裕而さんのスケッチには柔らかいタッチの絵のみが描かれている事が多く、スケッチからもお二人の性格が滲み出ていました。

裕而さんの愛妻家ぶりが伺えるエピソードとして、東京へ上京する際、金子さんが音楽学校に通うにあたり、上野の音楽学校は既婚者は入学できなかった一方で、世田谷の音楽学校は既婚者でも入れたため、金子さんが学校に通いやすい世田谷に引っ越したのだそうです。奥様想いの素敵な旦那様ですね。

それではEメール通信第2号、今回はこのあたりで失礼させて頂きます。お付き合い頂きましてありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

♪Eメール通信に関するお問合せ♪

福島市観光コンベンション推進室（鈴木祐二） [TEL:024-572-5719](tel:024-572-5719)

E-mail: yuuji-114@mail.city.fukushima.fukushima.jp

福島市観光コンベンション協会（金澤千裕） [TEL:024-563-5554](tel:024-563-5554)

E-mail: chihiro-k@f-kankou.jp

